

～欣浄寺法語メール～2016年3月～

アマチュア6段の小生がコンピュータ囲碁ソフトに負けてショックだったとつづった法語メールをお送りしたのがちょうど1年前、しかしまさかこんなことになってしまうとは思ってもいませんでした。ニュースでご存じでしょう、世界一の実力者である韓国のプロ棋士がコンピュータに敗れたのです。1年前のメールで、AI（人工知能）の進歩には目を見張りますが少し恐ろしくもあります、と書いたことが現実味をおびます。

囲碁のことを「手談」と言います。言葉がなくても碁石の打ち方でお互いの気持ちや意志をやりとりできるからです。コンピュータ囲碁ソフトに格段の進歩を感じるのはそのことで、コンピュータの画面を通して相手（人

工知能) の喜怒哀楽が伝わってきます。

以下は小生の妄想です。A I (人工知能) を備えたロボットをアンドロイドと言います。アンドロイドも私たちと同じく喜び、悲しみそして悩みます。そんなアンドロイドが、ある時お寺にお参りし手を合わせそして柱にかかっている今年の法語カレンダー3月の言葉「信心(しんじん)ひとたびおこりなば 煩惱(なやみ)を断(た)たで涅槃(すくい)あり」を見て、しばらくたたずみそして深くうなずくのです。そうか、悩みと救いはコインの裏表なんだと・・・。